

ボクシング部



1979(昭和54年) 3部トーナメントに優勝。2部昇格を果たし、その勢いで第28回早慶戦も勝つ。森のストレートが決まった瞬間。



1926(昭和元年)・5 九段靖国神社相撲場で全国学生拳闘選手権に石川、海老沢らが出場した。



1929(昭和4年)・10・16 第1回早慶戦が大開講堂で行われ4-3.5で本塾が勝った。



1931(昭和6年) 第9回極東選手権東京大会で主将海老沢は栄光のバンタム級チャンピオンになり、翌1931年第1回フィリピン遠征のバンタム級代表に選ばれた。前列左端が海老沢。

1950(昭和25年) 横山部長を囲んだ当時の主力選手。(三田帝拳ジム)前列左より河合(聴)、横山部長、吉田、桑野。後列左より三橋、川島、香取、松本(浩)。



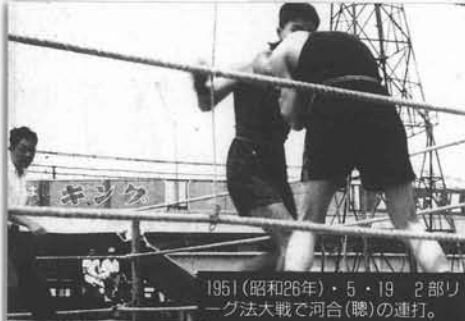
1951(昭和26年)・5・19 2部リーグ法大戦で河合(聴)の左アッパから右フックが決まる瞬間。(後楽園バレーコート)

1938(昭和13年)・7・30 第9回早慶戦が大阪西宮球場特設リングで行われ、4-4の引き分け。



1938(昭和13年) 早慶明3大学リーグ入場風景。





1951(昭和26年)・5・19 2部リーグ法大戦で河合(聡)の連打。



1952(昭和27年)・10・21 第7回国体秋季大会にてボクシング競技大会へお成りの両陛下にご説明する石川OB日本アマチュアボクシング連盟副会長。



1975(昭和50年)・10・27 第30回国体秋季大会にて。ボクシング競技大会へお成りの両陛下にご説明する山田OB日本アマチュアボクシング連盟会長。



1956(昭和31年) 横山部長、野口監督、井口コーチを囲んだ主力選手。前列左より小泉、相川、野口、横山、井口、川端、石井。



1960(昭和35年)・12・3 戦後初めて早慶戦に勝って喜んでいる現役、OB。前列左より宮脇、砂押、井上、大久保、野口監督、田口コーチ、河合(哲)、北島、泉水、大宮。



1964(昭和39年) 日吉製谷道場前にて。後列左より富田、井沢、福嶋、服部。中列左より大之木、近藤、神田。前列左より川添、菅原。



1979(昭和54年) 3部優勝と2部昇格を果たした喜びの部員達。日吉製谷道場後列左より赤坂西コーチ、新田監督。前列左より野崎、古野、山岸、森。



1979(昭和54年)・11・24 第28回早慶戦、森の連打で腰を落とす早大松村。

1925・10・1 慶應義塾拳闘倶楽部として、同年5月第1回全国学生大会のフェザー級で優勝した石川輝らにより創設される。部長はウィード。

1926・6 第3回大会でバンタム級海老沢、フェザー級石川優勝。第4回大会でも石川優勝。1927・5・25 日本初の大学対抗の早慶戦が東京青山会館で行われ、5対5で引き分ける。第4回明治神宮体育大会にボクシングが初参加、フェザー級土屋、フライ級吉原優勝。部長南熊夫。

1928 主将土屋(愛)。全日本学連誕生。

1929・10・16 第1回早慶戦が大隅講堂で開催。4対3.5で勝利。第7回全日本にライト級鈴木優勝。主将鈴木(論)。

1930・5 第9回極東大会バンタム級海老沢優勝。

1931 早慶明法専日の6大学リーグ結成。2勝1敗2分けで3位。この年、春、秋に早慶

戦を行い春は分け、秋は敗れる。監督海老沢(清)。第10回極東大会バンタム級に原、準優勝。主将原五郎。

1932・9 第4回早慶戦敗れる。主将巻幡。

1933 6大学リーグ脱退。リーグ崩壊。

1934 早慶明3大学リーグ結成。早慶戦が神宮外苑、早慶戦が日比谷音楽堂で行われたが共に惜敗。監督島本(健)。

1935 主将平井(武)。第6回早慶戦に敗れる。

1936 部長気賀健三、主将磯部(良)。第7回早慶戦敗れる。関東学生大会バンタム級広川優勝。

1937 塾内対抗競技部に加盟。日吉製谷道場完成。第8回早慶戦敗れる。関東アマ選手権バンタム級広川、ウェルター級李優勝。全日本大会ウェルター級李優勝。

1938 部長町田義一郎。主将渋谷(義)。7西宮球場で第9回、秋、日比谷公会堂で第10回の早慶戦を行い、共に引き分ける。

1939 早慶明連合対関学関大戦が甲子園球場で行われ、連合軍が9対3で大勝。主将野口(常)。

1940 第11回早慶戦敗れる。主将滝沢(隼)。

1941 10年ぶりで第12回早慶戦に勝つ。主将大沢(太)。

1942 第13回早慶戦敗れる。主将殿木(健)。

1943 軍国色に反対し、全日本アマ連脱退。早大と初の合同練習。主将斉藤(輝)。

1944 部活動を停止。

1945 主将岩井(透)、鎌田、井口らで再建。

1946 部長気賀健三、主将鎌田(清)。4体育会に加入、体育会拳闘部誕生。綱町剣道場で練習再開。岩井は拳闘部初の体育会功労賞を受賞。

1947 主将井口(進)。関東大学トーナメント始まる。

1948 関東大学紅白リーグに参加。紅組4位。前年より復活した早慶明3大学リーグに出場するも陳容未だして早明に敗れる。大敗



1985(昭和60年)・12・13 早慶戦で両校史上初めてのシャットアウトで大勝。塾長招待を受けて喜ぶ部員達。前列左より金子前体育会理事、石川塾長。中央左が吉田前三田会会長、右が浜田前ボクシング部長。



1990(平成2年)・3・22 小田ボクシング部長を囲んで喜びの卒業生達。左より滝沢、佐藤、榊、高橋、小田、松本、李。



1990(平成2年)・3・3 日吉愛谷道場の増改築による竣工式が、阪基体育会理事、石丸早大福門拳倶楽部会長、小田ボクシング部長、河合ボクシング三田会会長など関係者多数出席のもと、とり行われた。

した本塾の中で桑野(靖)、河合(聡)が活躍。主将金倉(正)。

1949 部長横山松三郎、監督野口(常)。関東大学2部リーグ4位。拳闘部をボクシング部と改名。OBの岩井は関西アマ選手権バンタム級優勝。この年も早慶明3大学リーグで早明に大敗。

1950 主将吉田(功)。2部リーグ3位。/5同志社大に敗れる。/11 全秋田に敗れる。/12 全山梨に勝つ。

1951 主将河合(聡)。2部リーグ4位。同志社戦、全石川戦に勝つ。早慶明リーグ中止。

1952 主将松本(浩)。2部リーグ4位。早慶連合対関学関大連合に松本以下4名出場。4、5対4、5で引き分ける。

1953 主将田口(二)。2部リーグ4位。金子、北陸アマ選手権フェザー級優勝。国体東京代表監督に井口就任。アマ連ハワい遠征監督に石川就任。

1954 主将金子(嘉)。2部リーグ3位。

1955 主将小林(章)。2部リーグ3位。

1956 主将相川(春)。2部リーグ4位。復活第1回早慶戦惜敗。同志社戦、全静岡戦、全広島戦に勝つ。

1957 主将石井(忠)。2部リーグ全敗5位。入替戦で勝ち、2部残留。第15回早慶戦に敗れる。

1958 主将町田(清)。2部リーグ4位。第16回早慶戦に敗れる。

1959 2部リーグ全勝するも3位(桑権ルールによる)。第17回早慶戦に敗れる。主将町田。

1960 主将河合(哲)。2部リーグ5位。第18回早慶戦に4-3で勝つ。三田ボクシング倶楽部をボクシング三田会と改名。

1961 主将砂押(雅)。2部リーグ初優勝。関東アマ選手権フライ級宮脇、ウェルター級近藤優勝。全日本アマ選手権河合(哲)優勝。

1962 部長宮崎友愛、主将沢井(翼)。2部リーグ4位。全日本アマ選手権ウェルター級近

藤準優勝。

1963 主将宮脇(正)。2部リーグ4位。

1964 主將近藤(一)。石川、海老沢、野口、井口、近藤、東京五輪大会役員として参加。

1965 主将篠崎(文)。2部リーグ全敗6位、3部転落。

1966 主将内田(健)。3部トーナメント2回戦敗退。関東アマ選手権フライ級磯貝優勝。

1967 部長太田垣瑞一郎。主将野田(靖)。3部トーナメント1回戦敗退。関東アマ選手権ライトフライ級磯貝、フライ級藤野優勝。第3回アジア選手権ライトフライ級磯貝銀メダル、全日本ライトフライ級1位。

1968 主将磯貝(信)。トーナメント不出場。

1969 主将藤野(敏)。トーナメント不出場。9年振り再開の第19回早慶戦に5-2で勝つ。

1970 監督砂押(雅)。主将長坂(泰)。3部トーナメント3位。第20回早慶戦に敗れる。全



1990(平成2年)・10・11 昨日の敵は今日の友。早慶明3大学ボクシングOB会のゴルフコンペ。前列左より河合ボクシング三田会会長、後列中央小泉事務局長と3大学のOB達。



1991(平成3年) 日吉嶽谷道場にて現役スパーリング風景。3年道祖土、2年小林。



慶広義塾体育会ボクシング部
創立50周年記念式典

1975(昭和50年)・10・4 交詢社でボクシング部創立50周年式典が、当時の久野塾長、山田日本アマチュアボクシング連盟会長、気質元部長、照井体育会顧問など関係者多数出席のもと、盛大に行われた。



1991(平成3年) 日吉嶽谷道場にて現役スパーリング及び下の写真は練習風景。スパーリングは2年小林と3年道祖土。



慶広義塾体育会ボクシング部
創立50周年記念式典



日本アマ選手権ウェルター級富田準優勝。
1971 主将四橋(英)。3部トーナメント優勝。2部Bリーグ昇格。第21回早慶戦に敗れる。関東アマ選手権ライト級四橋優勝。
1972 主将新田(重)。2部Bリーグ2位。ハワイ遠征チームに富田参加。
1973 主将富田(修)。2部Bリーグ2位。/1 第22回早慶戦敗れる。/11 第23回早慶戦敗れる。
1974 主将中村(功)。3部リーグ全敗最下位。入替戦で勝ち残留。第24回早慶戦敗れる。
1975 主将中元(順)。3部リーグ全勝優勝。/10・4 交詢社で部創立50周年式典開催。第25回早慶戦敗れる。全日本アマ選手権ライトフライ級卯木準優勝。
1976 主将卯木(達)。3部リーグ優勝。
1977 主将浜口(篤)。3部リーグ全敗最下位。第26回早慶戦敗れる。監督西(史)。
1978 主将小宮(芳)。3部リーグ4位。第27

回早慶戦に敗れる。
1979 主将山岸(俊)。3部トーナメント優勝。2部に昇格。第28回早慶戦に4対3で勝つ。ライトウェルター級国体代表に森。
1980 主将森(章)。2部リーグ5位。関学対抗戦に勝つ。監督新田(重)。
1981 主将赤坂(龍)。2部リーグ5位。関学対抗戦に勝つ。第29回早慶戦敗れる。
1982 部長浜田敏郎、主将田尾(純)。2部リーグ全敗。入替戦に勝ち残留。第30回早慶戦に6対1で圧勝。
1983 主将岩佐(隆)。2部リーグ2位。関学対抗戦に勝つ。第31回早慶戦に6対1で連勝。出村(繁)全日本ウェルター級3位。
1984 主将三木(城)。2部リーグ2位。第32回早慶戦に敗れる。監督岩瀬(泰)。
1985 主将松岡(宏)。2部リーグ4位。第33回早慶戦は両校史上初めてシャットアウトの7対0で大勝した。監督八代(光)。

1986 主将田辺(英)。2部リーグ3位。第34回早慶戦に敗れる。
1987 監督藤野(敏)、主将白土(晃)。2部リーグ6位。入替戦に勝ち残留。第35回早慶戦に4対3で勝つ。
1988 主将多賀(文)。2部リーグ6位。第36回早慶戦敗れる。佐藤バンタム級全日本3位。
1989 部長小田卓爾、主将佐藤(友)。2部リーグ4位。第37回早慶戦敗れる。
1990 主将島田(景)。2部リーグ4位。第38回早慶戦に4-3で勝つ。/3・3 前年より嶽谷道場の増改築をボクシング三田会で計画。この日竣工披露が行われる。同日塾に寄贈。
1991 主将小林(孝)。2部リーグ最下位。入替戦で3部に転落。第39回早慶戦敗れる。
*当部年表は、主にリーグ戦順位と現在39回の早慶定期戦の勝敗、個人はブロック予選の優勝者と全日本3位までを記載した。